



A1タービン

280ps仕様のインプレッサ用に開発されたボルトオンタービン。280ps仕様と同等以上の性能を発揮しながら、価格は280ps仕様よりもお求めの9万8000円。ちなみに、280ps仕様の純正タービンを他のモデルに移植するには多少加工が必要だ。



FR感覚で 4駆のメリットが活かせる 乗って楽しいクルマ なのだ

チューニングショップでインプレッサにいち早く手を付けたのがボススピード。デビューモデルから280PS仕様まで、細かな変更点がいっぱいあって、それぞれの仕様にあわせたノウハウでチューニングしてくわざぞ。

**ハイブリッド
インターフーラーRS**

前置きインタークーラーキットは各社とも、力を入れている製品。吸入空気を冷やすことで、パワーを上げることとエンジンを保護することが両立できるからね。

パワーFC&
FCコマンダー

開発に時間がかかる、フルコンピューターの中でも優先的に開発されたのが、インプレッサ用パワーFC&FCコマンダー。コンピューターの問題さえクリアすればチューニングにもはすみがつくってもんだ。



エキソーストマニホールド&
サクション+エキソースト

競技で勝てるバーツ”と
うコンセプトで開発され
いるクスコのバーツは新
い試みもいっぱい。排気
歩を避けるための等長マ
ホールドやサクションヘ
ンターカーラー、エキマ
ー、アウトレット、エキソ
ストとセットで専用につ
られたセットバーツなど、
ンプレッサオーナーはG
選手権と共に注目すべし。



クスコ発

自陣からテニス・センターに引越すかと
も高いクマルなんだ。なんたって、
スバルがWRCで勝とうと思つて作
つたわけだからね。

チューニングに火がつきはじめた
のは、WRCのレギュレーション変
更で前置きインタークーラーがOK
になつてから、つてことだけどオレ
が思うにトラストのパイクスや全日
本ダートトライアルでの活躍や、ク
スコのGT選手権出場も大きく関係
がありそう。

とにかく、インプレッサが気にな
るひとは今すぐ食らいついて良さそ
うだ。なんせ、この記事が出たあと
は一気に中古車相場が上がると思わ
れるからね。(↑根拠なし)

そういうやあ、クスコGTマシンの
ドライバーの且雄さんも「シリビア
を売つていンプレッサ買うんだ」な
んといつてたな。

チューニング業界に

インプレッサ旋風



トライアル発

注目の インプレッサ用 イケてるNEWパーツ

トライアルは外観と中身のトータルに攻める。TRY-Rは今年中にGT-Rキラーとして各地のサークットで活躍する予定だ。まずその手始めとして作られたのがGT-Rサイズのコアを使って製作された“前置きビッグインタークーラーKIT”なのだ。

なんでも、FFベースといいながらもサスペンション&駆動系の味つけがFR感覚。ランエボの感覚が「乗らされる感じ」なのに対してインプレッサは“操っている楽しさ”を味わいやすいという。もしかしたらエンジンが縦置きにマウントされているっていうことも関係あるのかな？ エンジンフィールは“NA感覚で高回転までストレスなく一気につまむ”って気がついたらスピードにつている”まるでタービン交換されたクルマみたいな感じだ。30000rpmでフルブーストになつた直後の40000rpm台でカッタルさ(タレ)を感じてしまうセリカとは大違いだ。ちなみに、このフィーリングの源泉は純正で装着されている三菱のT.D.ニンジングマシン顔負けのタービンが純正で装着されていることによるものだと思われる。

全般的にチューニングパーツの動きが鈍化している中で、各メーカー＆ショップがこぞって開発を進めている車種がある。そう、写真が出てるからいうまでもないけどあえていおう、今インプレッサのチューニングがすごくアツいんだ。そういうえば、インプレッサってラリーやダートラでは超活躍しているクルマだからチューニングの素材にもピッタリんだろうな。

これまでライバルのランエボやセリカに押されがちで、どうもチューニングの表舞台に上ることの少ないかったインプレッサがにわかに人気を集めている。

なんでも、メーカー＆ショットが開発。バーツの優先順位を決める時にも“インプレッサなら間違いくらいけるでしょう”なんて読みで開発に着手されているということだ。

ランエボ、インプレッサなどのチューニングに精通しているボグスピードに聞いた話では、絶対的な速さの問題はチューニングの度合いによるけど”という前書きをしながらも“運転して楽しいクルマといえばイ